

1 自己評価の結果と分析

（評価は四段階 A:大いに達成 B:概ね達成 C:もう一息 D:不十分）

Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点としたときの全教員の評価の平均を数値で表した。

No.	観点	項目	点数	評価
1	学校生活	児童は楽しく元気に学校生活を送っている。	3. 8	A
2	児童の学力	児童は学年に応じた基礎学力を身に付けている。	3. 3	B
3	主体的な学び	授業は、児童がすすんで学び思考力や表現力を高めるための工夫がされている。	3. 2	B
4	算数習熟度別指導	算数の習熟度別学習は、効果的に行われている。	3. 3	B
5	個別最適な学び	授業は、一人一人の学習状況に合わせた工夫がされている。	3. 4	B
6	NIE	新聞を教育活動に取り入れることで、読解力や表現力が高まっている。	3. 3	B
7	ICTの活用	授業では、きたコンやプロジェクターなどのICT機器が効果的に活用されている。	3. 5	B
8	あいさつ	児童は、いろいろな人にすすんであいさつをしている。	3. 2	B
9	生活のきまり	児童は生活のきまりを守っている。	3. 5	B
10	特別活動	学校は、きょうだいタイムや行事等を通して、児童の思いやりの心を育てている。	3. 6	A
11	健康教育	学校は、児童の体力向上や心身の健康作りを促進している。	3. 6	A
12	心の教育	学校は、道徳の時間や全教育活動を通して、児童の豊かな心の育成に努めている。	3. 5	B
13	読書指導	読書タイム、読み聞かせ、読書月間等の様々な取組は、児童の読書活動の推進につながっている。	3. 4	B
14	安全防災教育	学校では安全や防災に関する教育が適切に行われている。	3. 8	A
15	環境整備	学校は、安全に生活できる環境整備がされている。	3. 5	B
16	教育相談体制	学校は、児童が困ったときや悩んだときの相談体制が整っている。	3. 6	A
17	いじめへの取組	学校は、いじめ防止に向けた適切な取組を行っている。	3. 9	A
18	特別支援教育	学校は、配慮を要する児童への支援や、児童一人一人の特性に応じた指導を行っている。	3. 5	B

【別紙様式1】

19	開かれた学校作り	学校は、公開授業やまなびポケットなどを通して、教育活動を保護者に分かりやすく伝えている。	3. 7	A
20	外部との連携	学校は地域や様々な関係機関と連携を図っている。	3. 5	B

★3. 6以上を A とした。

○【児童の学校生活について】

児童アンケート及び保護者アンケートでも、「楽しく元気に学校生活を送っている」の肯定的な回答は、昨年より増えている。校内別室「さくらルーム」を利用している児童も、教室の授業に参加できる時間が増えてきている。引き続き児童の様子を丁寧に観察しながら見守り、課題に対する早期の対応を心がける。

○【いじめへの取組について】

生活指導主任を中心に校内で研修を行い、「いじめ総合対策」を活用し、いじめへの対応、指導についての理解を全教職員で深めた。小グループでのディスカッション形式を取り入れ、若手の教員の困り感を共に考え、具体的な対応の仕方を学んだ。保護者への「いじめ基本方針」についての説明は、夏休み明けの学級保護者会で担任から行った。いじめ事案については、学年を中心に学校全体で組織的に対応し、解消に至った。引き続き児童の人間関係を丁寧に見守り、望ましい人間関係づくりにつなげる。

○【広報活動について】

教員の自己評価では、まなびポケットを活用した広報活動に高い評価が出ているが、保護者の評価は、十分であるとはいえない。「わからない」という回答の多い設問が見られる。わかりやすい保護者宛通知の発信やホームページの工夫、学校公開の回数を増やすなど、学校教育への理解を深めるための取組が必要であると考えます。

○【児童の主体的な学びについて】

「自ら考えをもち表現する児童の育成」をめざし、授業ユニバーサルデザインの手法を取り入れた授業改善に取り組んだ。「焦点化」「視覚化」「共有化」などの手だてにより、学級の多くの児童が主体的に学習に参加する姿が見られるようになった。しかし、主体的に自分の考えを発信する段階には達していない。授業者の視点から学習者を中心とした授業改善に取り組む必要がある。

2 改善の方策

○【校内研究の取組】

児童のより主体的な学びをすすめる授業改善をめざし、生活科・総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントに取り組み、子供自身が「やりたいこと」を創造する探究学習を重点とした教育活動をすすめる。

○【異学年や特別支援学級との交流、外部人材との連携を通して、学び合う活動の充実】

異学年や特別支援学級の児童と交流する機会を計画的に設定し、互いに学び合う活動を通して、児童が自分のよさや可能性を認識するとともに、相手のよさを尊重しようとする態度を育てる。地域を学習材にする教材開発、ゲストティーチャーの人材発掘、身近なモデルを通したキャリア教育の充実を図る。

○【学校公開、広報活動の充実】

学校公開の時数を増やし、様々な教科や教育活動を保護者に参観していただく機会を増やし、学校教育への理解を深める。学校 HP や新機能「tetoru」を活用し、定期的に教育活動の様子を配信し、開かれた学校をめざす。